

(公財) 国連大学協力会 2020 年度事業報告書
FY2020 Operational Report
The Japan Foundation for the United Nations University

【はしがき】

2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染症の感染地域が、2020 年に入り急速に拡大し感染の世界的流行となった。日本国政府も 2020 年 4 月に国内全域を対象とした緊急事態宣言を発し、これを受けて本法人も、新型コロナウイルスの感染拡大予防の観点から、集合型の活動を殆ど取りやめて遠隔による活動を導入した。そのような状況下にあっても本法人は国連大学大学院学生の新型コロナウイルス感染症対策にかかる支援を新たに行う等、法人の主目的たる国連大学への支援について当初の目的を果たす活動を実施した。

【基本方針】

国際連合大学（以下「国連大学」又は「UNU」）は、1975 年に創設され、国連大学憲章において「人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ地球規模の問題の研究」をその仕事とされている。それゆえに国連大学は、国連及び関係機関に対し、革新的な政策の選択肢を支える客観的で偏りのないエビデンス（学術的根拠）に基づく「中立的なナレッジ・ブローカー（知識の仲介者）」としての役割を果たしている。

このことから、国連大学の実施するプログラムは、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」と密接に連携し、17 の持続可能な開発目標（SDGs）のすべての範囲と一致し、それらを網羅している。国連大学は、世界 5 大陸に広がる 14 の研究所とプログラムにおいて、600 名以上の研究者とサポートスタッフを擁し、学術的な取り組みに基づく解決策を見出し、国連システムと国連加盟国が SDGs に掲げられている目標を実現するための実際的な政策を提言している。

また、国連大学は独自の教育コースやプログラムを幅広く提供している。分野横断的な課題解決に力を入れ、今後発生する問題や課題に効果的に対処するために必要な知識や技術を未来のリーダーが身に付けることができるよう、大学院学位（修士および博士）を授与するコース、専門分野における科目等履修プログラムや短期集中コース、ワークショップを実施し、さらに若手研究者が国連大学の政策専門家と共に研究や多様なイベントに従事し学べる機会も提供している。

国連大学の大学院学位プログラムは、開発途上国の若手研究者および学者の能力向上、ならびに地域の大学および研究機関とのパートナーシップ強化を目的とし、現在、国連大学物質フラックス・資源統合管理研究所（UNU-FLORES、ドイツ・ドレスデン）、国連大学マーストリヒト技術革新・経済社会研究所（UNU-MERIT、オランダ・マーストリヒト）、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS、日本・東京）、国連大学環境・人間の安全保障研究所（UNU-EHS、ドイツ・ボン）の 4 研究所に設置されている。

UNU-IAS の大学院プログラムは、2020 年 8 月までに、博士号取得者を 13 名、修士号取得者を 83 名輩出した。また 2013 年より開始された東京大学大学院新領域創成科学研究科とのジョイント・ディプロマ・プログラムにおいては、2020 年 9 月までに 41 名の学生に、2017 年に開始された上智大学とのジョイント・ディプロマ・プログラムにより、2020 年 8 月までに 12 名の学生にそれぞれジョイント・ディプロマが授与された。入学応募状況も定着し、2020 年には修士課程に 204 名の応募があり 10 名が入学し、博士課程には 234 名の応募の中から 7 名が入学した。また、2020 年は新型コロナウイルス感染症の拡大する中でも充実した教育を実施した。

本法人は、国連大学憲章の精神を踏まえて国連大学の活動を支援することを目的としており、UNU-IAS が日本・東京にあることから、2020 年度においても UNU-IAS の教育・研究活

動を支援してきた。また本法人は、2010年の同大学院プログラムの創設時より、わが国の経済界及び有志の協力を得て、UNU-IAS 大学院学生を支援するための奨学金をスタートさせ、以来 UNU-IAS 大学院学生の支援を継続してきた。同大学院の卒業生数はまだ少人数ではあるが、彼らの多くは国際機関の研究プロジェクトや開発途上国の政府活動に参画しており、同大学院の人材育成目標にかなった活動を見せ始めている。

本法人は、これらの国連大学の実績に鑑み、国連大学の活動に対する我が国国民の関心を一層高め、東京にある UNU-IAS 大学院学生への奨学金支援を継続するとともに UNU-IAS の研究・研修の諸活動の支援を行った。このことは、本法人の公益事業の活性化を図ることを志向した本法人 2020 年度の基本方針に適うものである。

【Preface】

In 2020, the area infected with the Novel Coronavirus (COVID-19) expanded rapidly from events that occurred at the end of 2019 and became a pandemic. In April 2020, the Government of Japan declared a state of emergency for the entire country. In response to this, the Japan Foundation for the United Nations University (JFONU) introduced remote activities to help prevent the spread of COVID-19. Under the circumstances, JFONU carried out activities that fulfilled the original purpose of supporting the United Nations University (UNU), as well as newly introduced measures against COVID-19 infection of students in the UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) postgraduate programmes.

【Basic Guidelines】

UNU was established in 1975 by the United Nations (UN). The UNU Charter mandates the University to devote its work to “research into the pressing global problems of human survival, development and welfare”. UNU is a “neutral knowledge broker” that provides an objective, impartial evidence base to support innovative policy options for the UN and related organizations.

For this reason, UNU programmes align closely with the 2030 Agenda for Sustainable Development adopted by the United Nations in 2015, and generally encompass the full range of the 17 Sustainable Development Goals (SDGs). UNU has more than 600 researchers and support personnel, working in 14 institutes and programmes on five continents. UNU develops evidence-based solutions and advocates realistic policies that enable the UN system and Member States to achieve the SDGs.

UNU also offers a range of unique educational courses and programmes. These focus on cross-cutting issues and help equip the leaders of tomorrow with the knowledge and skill that will require them to effectively address emerging issues and challenges. UNU confers postgraduate (master’s and doctoral) degrees; organises specialized non-degree programmes, courses, and workshops; and provides opportunities through which young researchers can work alongside, and learn from, policy experts.

UNU’s postgraduate degree programmes enhance the capacity of young researchers and academics from developing countries and strengthen UNU’s partnerships with local universities and research institutions. Today, the four UNU Institutes offer degree programmes: The UNU Institute for Integrated Management of Material Fluxes and of Resources (UNU-FLORES), Dresden, Germany; The UNU Maastricht Economic and Social Research Institute on Innovation and Technology (UNU-MERIT), Maastricht, Netherlands; The UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS), Tokyo, Japan; and The UNU Institute for Environment and Human Security (UNU-EHS), Bonn, Germany.

By August 2020, the UNU-IAS postgraduate programmes had awarded doctoral degrees to 13 students and master’s degrees to 83 students. In addition, a joint diploma had been awarded to 41 students by September 2020 in the joint diploma programme launched in 2013 in cooperation with the University of Tokyo and a joint diploma had been awarded to 12 students by August 2020 in the joint

diploma programme launched in 2017 in cooperation with Sophia University. The University has a stable flow of applications and admissions. In 2020, among 204 applications for the master's programme, ten students were admitted, while among 234 applications for the doctoral programme, seven students were admitted. Despite the spread of the Novel Coronavirus (COVID-19) in 2020, UNU-IAS continued to deliver its unique educational opportunities and degree programmes.

The purpose of the Japan Foundation for the United Nations University (JFONU) is to support the activities of UNU in the spirit of the UNU Charter. We also support the educational and research activities of UNU-IAS, the UNU Institute located in Tokyo, Japan. Since the UNU-IAS postgraduate programmes were established in 2010, we have offered scholarship grants in cooperation with the Japanese business community and volunteers. Although a relatively small number of students have graduated from the UNU-IAS postgraduate programme so far, many of them are beginning to demonstrate the kinds of activities that meet the programme's human resource development goals by, for example, supporting the research projects of international organizations and government activities in developing countries.

To support UNU's important work in 2020, we continued to raise Japanese people's interest in UNU's activities, continued to provide scholarship support to UNU-IAS students in Tokyo, and continued to support the research and training activities of UNU-IAS. These activities have accomplished the basic policy of JFONU which aimed to revitalize its public benefit services.

【事業報告】【Operational Report】

I. 国連大学の活動への理解と支援を高めるための広報・キャンペーン

[Outreach Campaign on UNU's Activities]

広く国民に、国連大学の実施する人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ地球規模の問題の研究及びそれにかかわる教育・研修状況について周知させるとともに、それらの活動への理解と支援を高めるために広報・キャンペーンを行った。

2020年度は、特に新型コロナウイルス感染症の拡大により国連大学大学院の学生のほとんどが大学院本部のある日本に入国できなかった状況など、学生たちの動向を伝え、同大学院の意義や国際貢献への期待について、強力に広報活動を展開した。

1. 広報資料の作成 [Promotional Materials]

(1) ニュースレター（継続事業） [Newsletters] (On-going Mission)

国連大学の研究者や短期コース受講生、大学院生へのインタビューを掲載するなど、国連大学を国民に身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らし、特に大学院についてはカリキュラム内容や大学院生の生活ぶりなども掲載することにより、よりいっそう具体的に教育活動の様子を国民に伝えた。

(2) 各種パンフレット（継続事業） [Brochures] (On-going Mission)

本法人の活動概要や国連大学の活動概要を分かりやすく解説したパンフレット等を製作・改定し、賛助会員や企業関係者を中心として幅広く頒布し、国連大学と本法人の活動に関わる情報提供と広報に努めた。

2. インターネットによるキャンペーン [Campaigns through Internet]

(1) ウェブサイトの拡充（継続事業） [Updating of Website] (On-going Mission)

国連大学 IT 担当部署（C3: Campus Computing Center）の協力を得てリニューアルした本法人のウェブサイトを活用し、より充実したわかりやすい情報発信を始めた。

ウェブサイトによる広報に注力するとともに、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ユーチューブのさらなる活用を図った。また、国連大学広報部および国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）の広報担当との連携を強化し、国連大学の活動内容をより広範に紹介し、イベント情報の告知や記事の紹介を積極的に行い、さらに、本法人独自のコンテンツの充実にも着手した。

(2) メールマガジン（継続事業） [E-mail magazine] (On-going Mission)

賛助会員、国連大学や国連大学協力会の情報を直接的に希望する人々に、国連大学および国連大学協力会の様々なイベント案内を中心とした広報を展開した。

3. 若年層への広報活動（継続事業） [Outreach to Young People] (On-going Mission)

近年、中学生・高等学校生・大学生の間で地球規模課題への関心が高まってきた。これら若い人々の国連大学及び国際問題への理解と関心を高めるための広報活動の一環として国連大学見学会を実施している。2020年は、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から外部見学者の国連大学施設内への受け入れを中止したことに伴い実見学会の開催は実現できなかったが、オンラインによる国連大学見学会（レクチャー付き）を実施した（長野県上田高等学校高校生）。

4. ロータリークラブ等での広報活動（継続事業）

[Outreach to the Rotary Clubs, etc.] (On-going Mission)

国連大学の活動を幅広く広報するために、地域の各ロータリークラブ等での講演・卓話機会の獲得に努めた。2020年度においては、ロータリークラブの具体的支援として、東京南ロータリークラブより国連大学大学院サステナビリティ学研究科奨学助成（jfScholarship for UNU 賛助会員）への協力について実現を見た。

II. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等

[Lectures, Seminars, and Symposiums to Disseminate Knowledge regarding Solutions for the Global Issues]

国連大学の活動について人々の理解と支援を高めるため、国連大学と共催で、人類の生存や福祉、発展に関わる地球規模課題の解決のための講演会やシンポジウム・セミナーなどを継続的に開催している。中でも「UNU Alumni Café」は2017年より実施しているもので、UNUの大学院や人材育成コースの修了生を招き、UNU修了後の活動経緯や今どのような挑戦をしているかの報告をもとに参加者との意見交換をするものである。地球規模の課題への人々の理解と関心を深めると共に国連大学修了生の活躍を広く知ってもらう機会となり、広報効果の高い講演会であるが、2020年度においては開催しなかった。なお、本法人は修了生たちの同窓会事務運営を引き受けている。また、2020年度に共催予定であった国連大学グローバル・セミナーについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、UNU-IASの主催で2021年3月にオンライン開催となり、「Sustainable Solution for Global Environmental Problems」のテーマのもと3日間にわたる研修が計画されている。

III. 国連大学への助成活動 [Grants for the United Nations University]

国連大学への助成活動は、本法人の目的が国連大学の行う諸活動について必要な援助・協力を行うことによって国連大学の発展に寄与するとともに、地球規模課題解決のための知識普及を図り、もって、学術及び技術の振興、並びに国際相互理解の促進等に資することであることから、本法人として最も中核をなす活動である。2020年度においても重点を置いて実施した。なお、国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要とする分野の活動について、事前に国連大学関係者との意向調整を行うとともに、具体的助成対象事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行った。（各事業への助成額はP.10を参照）

1. 教育活動への助成 [Grants for UNU Capacity Development Programmes]

国連大学の教育活動は、地球規模の課題解決に従事するための高度かつ専門的な若き人材の育成を目的とし、国連大学IASの実施する大学院教育への支援及び短期研修活動への支援がある。

(1) UNU-IAS 大学院プログラム「サステナビリティ学研究科」の学生奨学金助成

(継続事業)

[Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes] (On-going Mission)

国連大学の実施する大学院プログラムのうち、日本・東京にあるサステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）が実施する大学院プログラム（サステナビリティ学修士課程および同博士課程）の学生に対し、日本に滞在しながら学位論文作成のための勉学と研究活

動に専念できるような生活環境を提供することを目的として、同大学院プログラム創設時(2010年)より継続的に支援しており、奨学金助成の内容は、学生の生活費を中心としたものである。UNU-IAS 大学院の学年歴は毎年9月始期であるため、本法人の2020年度の助成は、各学年2名ずつ(修士課程学生4名、博士課程学生6名、合計10名)に対し2020年9月に今後1年間分の奨学金を助成した。

(2) 新型コロナウイルス感染症対策特別奨学金 (新規事業)

[COVID-19 Special Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Degree Programmes]

(New Mission)

新型コロナウイルス感染症の拡大は2020年にパンデミック(世界的流行)となり、世界の多くの国で出入国制限が実施されたため、母国等滞在中の学生も含め UNU-IAS の学生の多くが9月の学業始期に日本国に入国できなかった。また、国外から日本に入国する際に、自費による新型コロナウイルス検査や2週間の自己隔離が義務付けられた。これらに要する自弁費用が国連大学の学生たちへの重い負担となった。そこで、本法人は、「助成諮問委員会」の審議を経て理事会・評議員会で決議し、必要とする学生全員に対応できる「新型コロナウイルス感染症対策特別奨学金」を助成した。

(3) UNU-IAS の実施する短期研修への助成 (継続事業)

[Grants for Short-term Seminar by UNU-IAS] (On-going Mission)

UNU-IAS が行っている短期研修への助成である。中でも、国連大学グローバル・セミナー[UNU Global Seminar in Japan] については、短期研修事業のうち最も歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持つ事業である。4日間の宿泊研修であるが、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従前より継続的に助成してきたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、このセミナーがオンライン開催としての実施が2021年に延期されたため、助成しなかった。

2. 国連大学の教育研究環境整備のための助成

[Grants for Maintenance of UNU Educational and Research Environment]

国連大学の学生や研究者たちが、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球規模の課題解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成した。

(1) 国連大学本部における教育研究のための施設整備費 (継続事業)

[Maintenance of UNU Educational and Research Facilities] (On-Going Mission)

(2) 国連大学図書館の蔵書購入費 (継続事業)

[Purchasing Books for UNU Library] (On-Going Mission)

3. 研究活動への助成 (継続事業)

[Grants for UNU Research Projects] (On-going Mission)

国連大学の研究成果は国連機関や世界の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元される。この事業は、このような国連大学の研究活動への助成を行うものであるが、2020年度は実施しなかった。

IV. 地球規模課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究

[Inquiry/Study related to Researches and Social Efforts to Settle the Global Issues]

2020年度は、前年度に引き続き、我が国におけるサステナビリティに関する取り組み及びサステナビリティ・サイエンスに係る取り組み状況について、資料収集を行った。

V. 国際相互理解の促進等に関する事業

[Promotion of International and Mutual Understanding]

地球規模の課題解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠であり、本法人が国連大学の諸活動を支援・協力するに当たっては、国連大学本部が日本に設置されていることの強みを活かし、諸活動に参加する世界各国の人々に、日本についての理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供する事業を行った。

1. 国際情報交流事業（継続事業）

[Global Information Exchange] (On-going Mission)

国連大学の研修事業は30有余年の歴史を持ち、この間多様な研修活動を展開し、修了生たちは、国連機関・国際機関・国際NGO・大学での研究活動など、緊急かつ地球規模の課題解決をする現場で活動している。これらの修了生たちは、国連大学での教育期間修了後も、それぞれが関わっている課題の情報交流の機会を希望している。本法人では、1999年度以来、これらの世界各国で活躍する修了生たちと賛助会員、日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を提供してきたところであり、大学院に在籍中の学生と本法人賛助会員ならびに日本の大学で学ぶ学生や教員との情報交流の機会を提供してきたが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、実施しなかった。

2. 日本文化体験事業（継続事業）

[Japanese Culture Experience] (On-going Mission)

国連大学本部において開催される各種研修会や大学院には、世界各国から学生が参集する。本事業は、このような学生たちが、研修・教育のための在日期間中に日本文化や日本の社会についての理解を深め、国際相互理解の促進に資するためのものである。

- (1) 日本文化に接する機会を提供するプログラムとして、2020年度は、1月に歌舞伎鑑賞会「通し狂言 菊一座令和仇討（きくいちざれいわのあだうち）」を実施した。
- (2) 日本の先端企業の見学など日本の経済産業活動に直接に接する事業を継続的に実施してきたが、2020年は4月開催予定であった企業見学を新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み中止した。

VI. 寄付金募金活動 [Fundraising Activities]

国連大学は日本に本部組織を置く唯一の国連機関であり、国際貢献・国際親善の観点から日本国民にもなじみの深い国際機関である。しかしながら、国連大学の運営予算は、通常の国連予算（各国の分担金による）からの配分は全く受けず、各国政府・民間からの拠出金（任意の提供金）によって運営されている。これらのことに鑑み、本法人は、創設当初より、日本国民の国連大学に対する幅広い支援を得るための寄付金募金活動を実施してきた。（各事業の募金額はP.9を参照）

また、国連大学への支援の継続性を確立するために、現行の募金活動を見直し、新たなファンドレイジングのあり方の検討を開始した。

1. UNU-IAS 大学院プログラム「サステイナビリティ学研究科」奨学支援募金活動

（継続事業）

[Fundraising Activities for the Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes]

（On-going Mission）

国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は2014年に従前の国連大学サステイナビリティと平和研究所（東京）と高等研究所（横浜）が合併してできた研究所であ

る。前者が有していた 2010 年創設の大学院プログラムが合併後の研究所に引き継がれ、「UNU-IAS 大学院プログラム サステナビリティ学研究科」となった。本法人は、この大学院創設の意義に鑑み、世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行うため、2010 年秋に、「国連大学大学院サステナビリティ学研究科奨学助成賛助会員（「jfScholarship for UNU 賛助会員」）」を開始し、世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行ってきた。

賛助会員の募集にあたっては、産業界との連携を強化し、企業団体等に広く協力を求めるとともに、一般国民からも幅広く参加を呼びかけた。

2020 年度において本法人が受入れた当該寄付金の額は 12,801,000 円（法人 16 件、個人 10 件）であった。

2. 一般寄付金（継続事業） [General Donation] (On-going Mission)

国連大学が実施する教育研究プロジェクトへの助成および本法人の行う広報・普及活動等への支援を目的に、一般寄付金は、任意の時期に任意の寄付金を広く国民から受け入れる募金活動である。なお、この募金活動においては、寄付者の意思によって UNU-IAS の特定の事項を指定して寄付することができるものであり、企業団体等をはじめ一般国民にも幅広く協力を呼びかける。2017 年度から開始した古本募金(チャリボン)については、広く一般に寄付を呼びかける仕組みであり、2020 年度においてもこの募金を国連大学本部ビル内に勤務する方々に対しても広報した。

2020 年度において本法人が受入れた当該寄付金額は、52,232 円（法人 8 件、個人 16 件）であった。

3. 一般賛助会費（継続事業） [Donation from Supporting Members] (On-going Mission)

この一般賛助会員制度による寄付金募金は、従来から実施しているものであるが、本法人の行う活動及び国連大学の教育研究活動全般を継続的・安定的に支援することを目的にしている。賛助会員の募集にあたっては、企業団体等をはじめ一般国民からも幅広く参加を呼びかけた。

2020 年度において本法人が受入れた一般賛助会費は総額 455,000 円（法人会員 2 件、個人会員 24 件）であった。

VII. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of jfUNU]

本法人は、公益財団法人への移行後 10 年を越え、この間において本法人の諸活動は、公益目的事業・法人管理運営事業に区分した事業展開が徹底し、公益法人活動としては円滑な発展を見ている。

管理運営については、理事会、評議員会、監事会議、助成諮問委員会等を定期的かつ適切に開催し、また、執行理事の権限等の役割分担を明確にし、公益法人としての社会的責任を十分に果たしてきた。財務運営については、2008 年に「資産運用規程」を制定するとともに、同規程に基づき専門家を含む委員による「資産運用委員会」における議論に基づいて運用し、透明で安定的な資産運用を図った。

しかしながら、金融状況の長期的低迷から、財政基盤の確立、寄付金等収入額の増加については、極めて厳しい状況であった。

なお、2020 年度は、管理運営にかかる多くの活動をオンライン業務で実施した。

<公益財団法人国連大学協力会 2020年度事業報告 附属明細書>
2020年度 寄付金収入及び国連大学への助成実績一覧
 < FY2020 Operational Report Annex >

寄 付 金 収 入 (Donations and Dues)	金 額(¥)	
国連大学大学院「サステイナビリティ学研究科」支援募金 (指定寄付)	個人会員 8人 8件 (¥1,600,000) 法人会員 15法人 16件 (五十音順) (¥11,100,000) 一般社団法人 ABEST21 キッコーマン株式会社 株式会社島津製作所 住友化学株式会社 第一生命保険株式会社 トヨタ自動車株式会社 東レ株式会社 日本電子株式会社 株式会社日立製作所 株式会社三井住友銀行 公益財団法人三菱 UFJ 国際財団 株式会社三菱 UFJ 銀行 三菱商事株式会社 森本鐵鋼産業株式会社 YKK 株式会社 個人 2人 2件 (¥101,000)	12,801,000 円
一般寄付金	本法人への寄付 (古本募金) 法人 1法人 8件 (¥15,902) 株式会社バリューボックス 個人 12人 13件 (¥26,330) (その他) 個人 3人 3件 (¥10,000)	52,232 円
一般賛助会費	個人会員 24人 24件 (¥255,000) 法人会員 2法人 2件 (五十音順) (¥200,000) 有限会社国大協サービス 栄通信工業株式会社	455,000 円
合計額 :		13,308,232 円

国連大学への助成 (Grants for UNU)	金額 (¥)
・ 大学院「サステナビリティ学研究科」の学生奨学経費助成 Scholarship Grants for the UNU-IAS Postgraduate Programmes	14,400,000 円
・ UNU-IAS 大学院生対象の新型コロナウイルス感染症対策特別奨学金 Special Scholarship Grants for the UNU-IAS Students	1,700,000 円
・ 国連大学本部における教育研究のための施設整備費 Maintenance of UNU Centre Facilities	5,000,000 円
・ 国連大学図書館の蔵書購入費 UNU Library Book Procurement Grants	50,000 円
合計額：	21,150,000 円